

文化遺産ニュース

Cultural Heritage News
from NARA

Vol.
29
March 2017

◎ 集団研修	1
◎ 文化遺産 ワークショップ(フィリピン)	2
◎ 個別テーマ研修(カンボジア・ラオス・ミャンマー)	3
◎ 国際会議「アジア太平洋地域における文化遺産保護人材養成の実情と課題」	4
◎ 文化遺産 国際シンポジウム「シリア内戦と文化遺産」	5/6
◎ 世界遺産教室	5/6
フィリピンの歴史的聖地「アギナルド記念館とマビニ記念館」	



集団研修

2016年8月30日から9月29日まで、アジア太平洋地域の15カ国から15名の研修生を招き、「遺跡の調査と保護」をテーマに実施しました。



臨地研修(出島和蘭商館跡)



臨地研修(平城京左京三条二坊宮跡庭園)



臨地研修(東大寺東塔跡)

A C C U奈良事務所の人材養成事業で中核になるのが集団研修です。「考古遺跡の調査と保護」と「木造建造物の保存と修復」の2種類の研修テーマを用意して、交互に実施しています。昨2016年は考古遺跡の年でした。15名の研修生は、政府機関・博物館・大学や研究所などで、自国の文化財保護に携わる若者から中堅です。

この研修の大きな特色のひとつは、研修の共催機関であるイタコム文化財保存修復研究国際センター／本部ローゴから、プログラム冒頭と最後に講師を招き、議論と情報交換を深めていることです。日本だけでなく、アジア地域全体の、あるいは世界的な文化遺産保護の動向を知る絶好の機会になっています。

また、実習や実際に現場を訪れる臨地研修にも多くの時間を充てています。奈良市埋蔵文化財調査センターで行った土器の実測実習では、細かな日本流に手こずりながらも、遺物をとことん観察して記録することの重要性を学びました。

臨地研修では、ちょうど進行中だった平城京左京三条二坊宮跡庭園の修理作業の現場や、東大寺東塔跡の発掘調査の現場などで、貴重な見聞の機会を得ました。そしてA C C Uの研修では、はじめて長崎市を訪れました。出島和蘭商館跡と長崎奉行所立山役所跡で、発掘調査から整備と活用に至る一連の事業を体系的に学習することができました。



土器実測実習

カリキュラム(概要)

講義

「文化遺産の保存と活用―国際的展望」日本の文化財保護制度「日本における遺跡の調査と整備活用」「遺跡の保存科学」遺物の記録法「文化財保護と地域連携」など

実習

「遺構・遺物の記録法(実測・拓本・写真)」「遺跡の保存科学」など

臨地研修

(奈良県) 東大寺・興福寺・春日大社・平城宮跡・奈良文化財研究所・平城京左京三条二坊宮跡庭園・奈良市埋蔵文化財調査センター・依水園・法隆寺・斑鳩文化財活用センター・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・飛鳥資料館など
(長崎県) 出島和蘭商館跡・長崎歴史文化博物館など

報告・討議

研修生各国の「遺跡保存活用の実情と課題」についての報告と意見交換

参加国

アフガニスタン・バングラデシュ・ブータン・カンボジア・イラン・ラオス・モンゴル・ネパール・ニュージランド・パプアニューギニア・スリランカ・タジキスタン・タイ・ウズベキスタン・ベトナム



ワークショップの参加者

文化遺産 ワークショップ

2016年10月10日から15日まで、
フィリピン共和国で実施しました。



写真撮影の実習

今回の研修テーマは、「木造建造物の記録方法」です。首都マニラのフィリピン国家歴史委員会で開催式と予備講義を済ませ、南郊のカビテ州カウィットに会場を移して、実習を行いました。教材に使用した建物は、今は記念館になっている、独立革命の指導者エミリオ・アギナルド（1869～1964）将軍の生家です。1898年（6月12日）に彼は、この建物のバルコニーで、スペインからの独立を宣言したのです。

1962年には、皇太子ご夫妻時代の天皇皇后両陛下が、ココアギナルド邸を訪れ、老將軍と一緒同じバルコニーに立ち、市民の歓迎に応えました。そうした由緒ある建物で、研修講



図面作製の実習

師を勤めたのは、東大寺技監の今西良男さん、奈良文化財研究所遺構研究室の西山和宏さん、文化財写真家の杉本和樹さんのお三方です。受講生は、フィリピン国内の各地で歴史建造物の調査や保護に携わる15名。国家歴史委員会・国立博物館・大学や研究所に所属する若者たちが中心です。

まずは、建物の平面図と断面図の作製です。実物を観察しながら、建具類や部材の組合せ方など、さまざまな情報を図上に表現するのですが、はじめのうちは、日本流のその細かさに、やや当惑気味。屋根裏構造の細部表現など、手こずりましたが、皆さん次第に慣れると上手く仕上げ、成果



摺本の実習

品の評価は上々でした。これに併せて、部材に残る工具の痕跡を記録する摺本（すりほん/拓本の一）の技術などについても学びました。

続いて、写真記録の研修です。いざ建物を撮る段になると、これまで何処へ行っても「柱が平行でまっすぐな写真撮るには、どうするの?」「薄暗い室内をきれいに撮るには、どうするの?」とよく聞かれました。フィリピンでも同様でしたが、講師直伝の適切なカメラ操作や、フラッシュライトの使い方と照明の工夫で、より良い画像が得られることが実感できたようで、とても好評でした。

カリキュラム

講義

「歴史的建造物の保存修理の目的」「文化財写真撮影の基礎知識」

実習

「文化財建造物の記録方法（スケッチと実測）」
「同（写真撮影）」

個別テーマ 研修

2016年11月8日から12月6日まで、カンボジア・ラオス・ミャンマーから6名(各国2名)の研修生を招き、「博物館等における文化財の調査・記録・保存修復・活用」をテーマに実施しました。



臨地研修(八尾市しおんじやま古墳)

同テーマの研修は、昨年に続き2回目です。昨年は南アジアの3カ国(ネパールのランカモルジブ)が参加しましたが、今回は東南アジアからです。いずれの国も、博物館の充実を目標とする一方で、その活動を担う人材が不足している実情も共通しています。

研修プログラムは、さまざまな博物館の活動を実際に見て学ぶ臨地研修と、実践的な実習が中心です。

臨地研修では、訪問する先々で、多種多様な教育事業や文化普及事業に触れたことが、とても印象的だったようです。とりわけ、子供や学生など若い人たち向けの体験学習に強い関心を持った様子で、自国でも取り組んでみたいと、意欲を語っていました。

実習では、構想を練るところから始めて、実際に展示をすることに挑戦。展示品運搬時の梱包テクニックから、レイア



展示実習(飛鳥資料館)

ウトやパネル製作の手法、そしてライティングの工夫に至るまで、各工程でのスキルに磨きをかけました。



写真撮影実習(平城宮跡)



臨地研修(東京国立博物館)

研修生からのメッセージ



バレイさん
(カンボジア)

自国のやり方には課題が多いと感じました。また、平城宮跡と資料館には特に感銘を受け、カンボジアの古都も同じように整備活用できるように、私もその役割を担うつもりです。



カムセンさん
(ラオス)

現在、新しい国立博物館の展示や活動計画の策定作業に携わっています。この研修で学んだ展示方法や教育活動を参考にしながら新たなチャレンジをしてみたいと思います。



ミーさん
(ミャンマー)

特に、教育活動や人材育成について、多くのことを学びました。なかでも、学生や地域の人々を巻き込んだ博物館活動は魅力的で、自分の職場でも、すぐに取り入れてみたいと考えています。

カリキュラム(概要)

講義

「日本の文化財制度」「日本の博物館制度」「博物館運営」「博物館の危機管理」「博物館の国際戦略」「考古遺物の展示法概説」「文化財写真概論」など

実習

「考古遺物の取扱い」「展示の企画と設営」「文化財記録(写真データ管理と活用)の実務」「考古遺物の収蔵環境と管理法」など

臨地研修

(奈良県)奈良文化財研究所と平城宮跡資料館・飛鳥資料館・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・東大寺ミュージアム・興福寺国宝館春日大社国宝殿
(他都府県)東京国立博物館(東京都)、大阪府立近つ飛鳥博物館(八尾市しおんじやま古墳学習館(大阪府)、兵庫県立考古博物館(兵庫県)

報告・討議

研修生各国の博物館の実情と課題についての報告と意見交換



国際会議

2016年12月13日から15日まで、文化遺産保護に携わるアジア太平洋地域の実務担当者が奈良に集まり、「文化遺産保護人材養成の実情と課題」について議論を交わしました。

事例報告

当事務所が、アジア太平洋地域の諸国を対象に、文化遺産保護協力のための研修事業を開始したのは2000年のこと。これまでの参加者は、37カ国から481名を数えます。なかには現在、各国の文化遺産保護の分野で、指導的役割を果たしている人も増えてきました。

そこで、そうした代表者を再び奈良に招き、各国の人材養成の実情と課題の最新動向を探り、今後の協力のあり方を考える目的で、この会議を開催しました。

会議冒頭は、2つの基調講演です。研修事業の共催機関でローマに本部を置くイクロム（文化財保存修復研究国際センター）のガミニ・ウイジェスリヤさんが、文化遺産保護人材養成の最近の国際動向を披露し、当事務所長の西村康が、人材養成研修15年のあゆみを振り返りました。

続いて、ネパール・バンングラデシュ・スリランカ・ベトナム・ブータン・フィジーで活躍中の研修参加者OB代表が、自国の人材養成の実情と課題について事例報告を行いました。人材不足と、現有職員のスキル向上が共通課題だということが浮き彫りになった報告でした。

会議後半は、講師などを努め研修事業に関わってきた、内外の討論参加者を交えた総合討議です。異国同音に事業の継続を期待する声に併せて、具体的な課題もいくつか挙げられました。大きな課題のひとつが、言語の問題でした。複数の国々が参加する研修の

場合、使用する言語は英語になります。しかし、自国の現場で文化遺産の保護に従事している人たちの多くは、母国語を常用しています。英語が話せる人は一部なのです。必然、英語で行う研修に参加できる人は限られてしまいます。

当事務所では従前から、英語で行う「集団研修」に加え、ひとつの国から数人を奈良に招く「個人研修」、あるいは当該国の現地で行う「ワークショップ」といったメニューで言語の問題に対応してきました。後者2つの研修は、母国語で行うことも可能だということですが、最大の利点です。今回の会議を通じて、これらが高く評価されていることと、機会の拡充に寄せる期待が大きいことを、あらためて認識したところです。



総合討議

このテーマの会議は、来年も開催する計画です。別の国々の意見も聞いてみたいと思います。皆さんから寄せられた意見を参考に、より充実した内容の研修事業が展開できればと考えています。



参加者の皆さん

参加者の皆さん

ガミニ・ウイジェスリヤ（イクロム）
西村 康（ACCUC奈良事務所）
スレッシュ・スラス・シユレスタ（ネパール）
ナヒード・サルタナ（バンングラデシュ）
プラッサナ・ラタヤナケ（スリランカ）
チャン・デイン・タイン（ベトナム）
ナクツォ・ドルジ（ブータン）
エリア・ナコロ（フィジー）
稲葉信子（筑波大学）
西 和彦（文化庁）
近藤光雄（文化財建造物保存技術協会）
友田正彦（東京文化財研究所）
加藤雅人（東京文化財研究所）
クリスティーナ・キャメロン（カナダ）
陸 偉（中国）
山口 勇（奈良市教育委員会）

文化遺産 国際シンポジウム

2016年11月23日に、東大寺総合文化センター金鐘ホールにおいて、「シリア内戦と文化遺産」をテーマに開催しました。



西藤清秀さんの報告

シリアでは、2016年に始まった内戦と、これに便乗した過激派組織「イスラム国」(IS)の乱入で、国内各地の貴重な文化遺産も甚大な被害を蒙りました。とりわけISによる世界遺産パルミラ遺跡^①の破壊は、衝撃的な出来事でした。日本でも大きく報道され、記憶にも新しいと思います。

そのような状況下、パルミラ遺跡の現状を知り、復興に向けて私たち国際社会は何が出来るかを考える機会にしようと、文化庁・東京文化財研究所・奈良文化財研究所・ACCU奈良事務所による4者共催で、本シンポジウムは企画されました。

奈良での開催に先立ち、11月20日には東京(東京国立博物館)で開催されましたが、ぜひ奈良県の皆さんに同じ内容をお伝えしたいと考え、機会をもった次第です。というのも、奈良県とパルミラ遺跡には、すでに20年来の深い関わりがあるからです。

1988年の「なら・シルクロード博覧会^②」が契機となり、奈良県は1990年から、県立橿原考古学研究所によるパルミラ遺跡の調査を始めました。研究所が継続して行ったローマ時代の地下墓の発掘調査と保存・修復は、遺跡の価値を世界に伝え、同地域の振興にも寄与してきました。

奈良のシンポジウム会場には、たくさんの県民の皆さんが訪れ、パルミラ遺跡への関心の高さを、あらためて感じた



爆破で砕け落ちた塔墓 (写真提供: Dr. Robert Zukowski)



パルミラ博物館の惨状 (写真提供: Dr. Robert Zukowski)

世界遺産 教室

高校生1,138名と、地理・歴史の授業を担当する先生26名が受講しました。

県内の高校生を対象に実施している「世界遺産教室」は、年を重ねる間に開催の要望が増え、2016年は10校で開催しました。加えて同年から、各校で教鞭をとる先生方のための「教室」を新たに開講したところです。

講師は、フリーアナウンサーの久保美智代さん、通訳の小野以秩子さんです。お二人とも仕事の傍ら、毎年いくつもの世界遺産を巡ってきた、自他ともに認める「世界遺産オタク」。久保さんは、これまでに訪問した世界遺産の数400カ所の大記録が目前です。

さて「世界遺産教室」では、条約の成り立ちや仕組み、その意義などについて学びます。講師自ら撮った映像をふんだんに使い、「おもしろゼミナール」と銘打ったクイズ形式の手法も交え、楽しみながら学ぶ工夫が随所にちりばめられています。最近では、講師への質問も多様になって、生徒さんの



爆破で砕け落ちた記念門 (写真提供: Dr. Robert Zukowski)



破壊前の記念門 (1986年撮影)



パネルディスカッション



パネラーの皆さん

ところです。
 プログラム前半は、パルミラ遺跡の調査研究や保護に長らく携わってきた、国内外の専門家による報告です。
 なかでも、2016年3月のIS撤退直後に現地入りした、ポーランド人研究者二人の報告が関心を集めました。爆破で砕け落ちた、神殿や塔墓や記念門。叩き割られた彫像の散乱で、足の踏み場もない博物館。その惨状を捉えた映像に、会場は息を詰めました。
 榎原考古学研究所が修復した地下墓でも、主の姿を彫刻した胸像の多くが、略奪されてしまいました。
 後半の意見交換では、将来シリアの文化遺産保護を担う若者たちの人材養成に、日本の支援を期待する声など

が寄せられました。
 「一日でも早く、パルミラに人々が戻り、笑顔が見られる日が来ることを願っています」パネラーのひとりには、こう締め括りました。
 (注1)パルミラ遺跡は、シリア・アラブ共和国の中央部、ホムス県タドモル(首都ダマスカスの北東約215km)にある、ローマ帝国支配時の都市遺跡。1980年に、ユネスコの世界遺産に登録。
 (注2)奈良県百年を記念して、奈良県・奈良市・NHKが「民族の英知とロマン」をテーマに、奈良公園一帯と平城宮跡を会場にして開催した地方博覧会。1988年4月23日から10月23日までの会期中に、682万人が入場。

パネラーの皆さん
 ロバート・ズコウスキー
 (ポーランド科学アカデミー考古学民族学研究所)
 バルトシュ・マルコフスキ(保存修復家)
 ホマーム・サード(ソルボンヌ大学)
 ナーダ・アル・ハッサン(ユネスコ世界遺産センター)
 常木 晃(筑波大学)
 西藤清秀(奈良県立榎原考古学研究所)
 友田正彦(安倍雅史(東京文化財研究所))
 森本 晋・山藤正敏(奈良文化財研究所)



畷傍高校(久保美智代さん)



奈良朱雀高校(小野以秩子さん)

関心の高まりを実感しています。
 片や、先生方が寄せる関心も、引を取りません。地歴科を担当する26名が、校務の合間を縫って参集しました。
 皆さんからは、率直な感想をたくさん頂戴しました。なかに「遺産の紹介に止まらず、世界遺産を通じて『心の中に平和の砦を築く』というメッセージが明確に伝わってきた」とありました。この企画への手応えを感じました。

フィリピンの歴史的聖地

アギナルド記念館とマビニ記念館



表紙の写真：アギナルド記念館



フィリピンでは、自国の歴史上、聖地ともいべき大切な史跡や建造物をHistorical Shrine(歴史的聖地)という呼称で指定して、保護を図っています。

ワークショップ(本誌2ページに記事掲載)の会場になったアギナルド記念館はその代表格です。本文中でも触れましたが、1898年の6月12日に、エミリオ・アギナルド(1869~1964)が、この建物でスペインからのフィリピン独立を宣言しました。その6月12日は現在、独立記念日として祝日になっています。フィリピンの人々にとって、この建物とこの場所が、まさに聖地だということも頷けます。

独立宣言の後、同年9月にはフィリピン人の代表者で構成される議会が発足。翌1899年1月に憲法を制定し、第一共和国を樹立。アギナルドが共和国の初代大統領に就任しました。この期間を通じ、彼の片腕になって活躍したのが、理論家のアポリナリオ・マビニ(1864~1903)です。憲法の構成を練りあげ、内閣の首相兼外相として大統領を支えました。

しかし、それも束の間、2月には、独立を認めないアメリカとの間で、戦争が始まります。マビニは逮捕されグアムに流刑となり、1901年3月にはアギナルドも拘束されて、第一共和国は事実上解体しました。

そのマビニの住居も、フィリピン国家歴史委員会が歴史的聖地に指定しています。ニツパヤシの葉で屋根を葺いた小さな建物で、彼は、成年期の大半を過ごし、流刑地からの帰還後に、この家で亡くなりました。もとは別の場所にありましたが、マニラ市サンタ・メサにあるフィリピン工芸大学の一角に移築され、今は記念館として保存・公開されています。



現行フィリピン5ペソ硬貨 (アギナルド)



現行フィリピン10ペソ硬貨 (上がマビニ)



1985~94年発行フィリピン5ペソ紙幣 (現在は流通していない) 表にアギナルドの肖像、裏に独立宣言時の様子が描かれている



アギナルド記念館



マビニ記念館



公益財団法人
ユネスコ・アジア文化センター
文化遺産保護協力事務所

Cultural Heritage Protection Cooperation Office, Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

〒630-8113 奈良市法蓮町 757(奈良県奈良総合庁舎1階)

TEL 0742-20-5001

FAX 0742-20-5701

URL <http://www.nara.accu.or.jp>

E-mail nara@accu.or.jp

交通アクセス

- 近鉄奈良駅から
 - 徒歩約20分
 - バス13番のりばから「西大寺駅行き」または「航空自衛隊行き」で、佐保小学校下車すぐ

- JR 奈良駅から
 - 徒歩約20分
 - バス西口5番のりばから「西大寺駅行き」または「航空自衛隊行き」で、佐保小学校下車すぐ